

令和3年度 大洗研究所総合訓練における課題対応について

1. はじめに

令和3年11月9日に実施した訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。

【抽出した課題等】

No	抽出した課題	区分	対策
1	原災法第25条報告において重複した内容を記載した。	通報連絡 (大洗研究所)	・重複なく記載することをルール化
2	原災法第10条通報において簡潔に記載すべきところを詳細に記載した。	通報連絡 (大洗研究所)	・簡潔に記載することをルール化
3	リエゾンPC端末でERCへ配布すべき資料をダウンロードする際に時間がかかる場合がある。	運営 (即応センター)	・メールに添付する資料の容量の上限を設定 ・分割してメール添付する
—	その他	—	—

2. 検討

<No.1>

【問題点】

- ・原災法第25条報告において、1枚目と2枚目に重複する記載が多くあった。

【課題】

- ・重複して記載することで、迅速に報告できないことがある。

【原因】

- ・分かりやすさを意識して、概要と詳細に分けて記載していた。

【対策】

- ・重複した記載をなくすことをルール化する。

<No. 2>

【問題点】

- ・原災法第10条通報の「主な施設・設備の状態等」の記載において、強制循環機能喪失と自然循環継続を簡潔に記載できなかった。

【課題】

- ・詳細に記載することで、迅速に報告できないことがある。

【原因】

- ・分かりやすさを意識して、事象の詳細を記載していた。

【対策】

- ・「止める、冷やす、閉じ込める」の状態を主として、事象を簡潔に記載することをルール化する。

<No. 3>

【問題点】

- ・即応センターからリエゾンに提供する資料（リエゾン経由でERCへ提供する資料）についてはメール添付で送信しているが、リエゾンPC端末でダウンロードする際に時間がかかり、ERCへの資料配布が遅くなった場面があった。

【課題】

- ・リエゾンPC端末でERCへ配布すべき資料をダウンロードする際に時間がかかる場合がある。

【原因】

- ・極端に容量が大きい資料を即応センターからメール添付して送付した。

【対策】

- ・メールに添付する資料の容量の上限を設定する。上限に達した場合、分割してメール添付することでダウンロードの時間を短縮する。

3. 「その他」に関する対策

(大洗研究所)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	通報連絡	通報連絡書に責任者のサイン（手書き）がなかった。	責任者の確認した結果が明確でなかった。	通報連絡書に責任者のサイン（手書き）を記載することをルール化する。
2	通報連絡	原災法第10条通報において、「1次主循環流量がほぼ0 m ³ /hr」と記載し、冷却ができない状態であることを記載していなかった。	測定値を意識しすぎて、その影響を記載できなかった。	正常時に期待される状態との違い（「流量が除熱必要流量以下」のように）を記載することを、ルール化する。

(機構本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策
1	災害対策資料	即応センターからERCに対して、非常用発電機をC系/D系と呼称したり1号/2号と呼称したりして表現が混在した説明をしたため、受け手側に分かりづらい場面があった。	災害対策資料の中で非常用発電機の呼称が混在していた。	災害対策資料を見直し、非常用発電機その他の呼称について統一する。
2	COP	即応センターからERCに対して、格納容器破損の可能性まで含めた事象進展予測の説明が実施できなかった(即答できなかった)。	現状の発生事象状況確認シートには、炉心損傷後の格納容器破損に係る記載がなかった。	発生事象状況確認シートの見直しを行い、炉心損傷後の格納容器の破損について記載しておくように見直す。

以上